

強度行動障害の理解

- ・ 障 害 特 性 の 理 解

社会福祉法人同愛会
大泉つつじ荘
事業所長 竹矢 恒

この時間で学ぶこと

- 関わる側の特性理解の不足による「環境面が整っていない状況」が、強度行動障害のリスクを高める要因となることがあります。
- 知的障害の程度が中度～最重度であり、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害（以下、自閉症と記す）の特徴が強い人たちが、強度行動障害の状態になりやすいという現状があります。したがって、自閉症の方々の特性を理解しておくことが重要です。

この時間の流れ

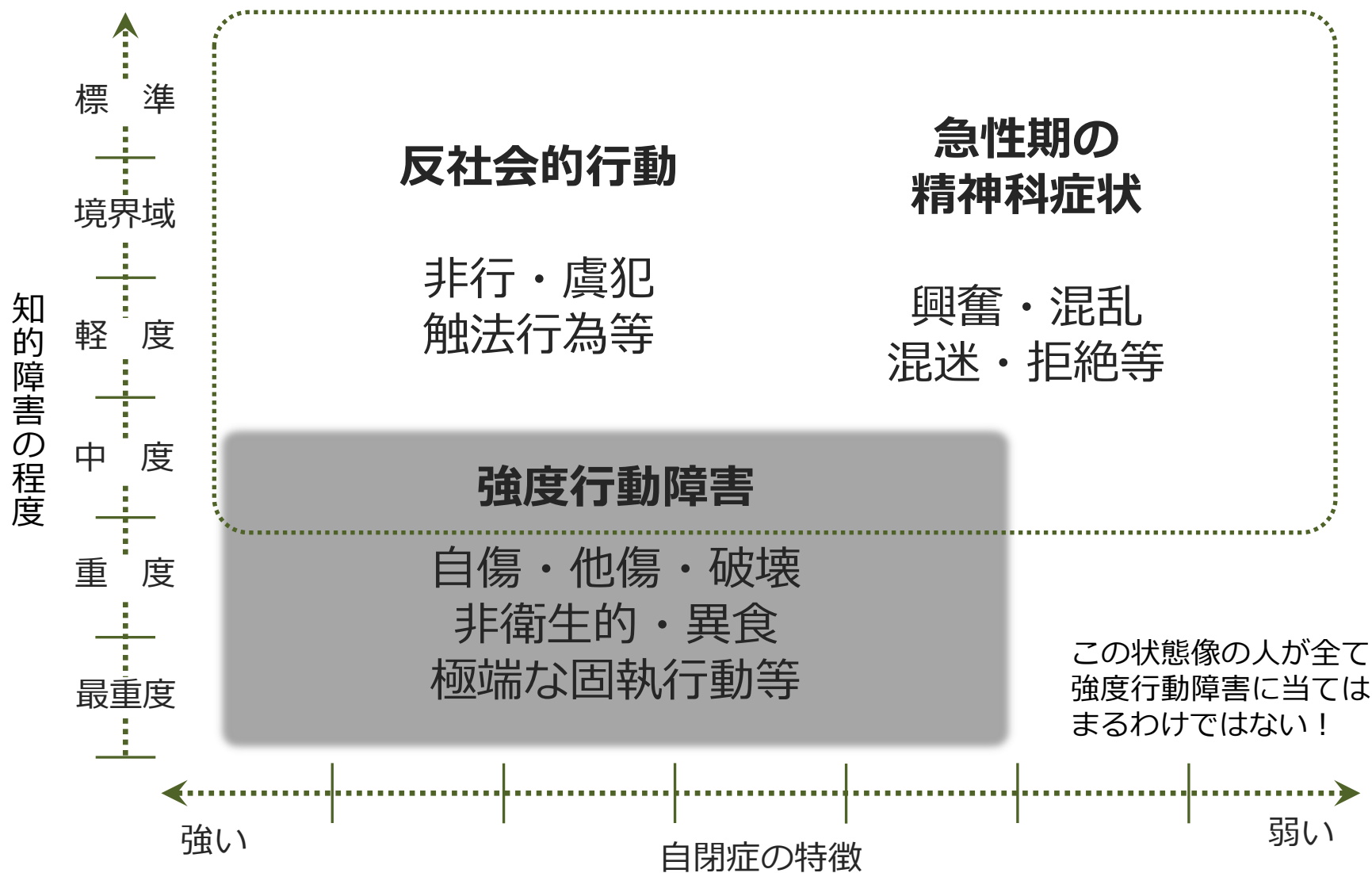
講義

 動画視聴

- ①なぜ自閉症の特性を学ぶのか
- ②自閉症について
- ③自閉症の特性を整理する
- ④学びと肯定的理解の重要性
- ⑤知的障害および精神障害について

①なぜ自閉症の特性を学ぶのか

強度行動障害になりやすいのは



強度行動障害と自閉症の関連性が高い
とされています。

したがって、
強度行動障害への支援を学ぶためには、
まず自閉症のことを知ることが大切です。

強度行動障害に関する調査結果①

岡山県が実施した2019 年度 強度行動障害に関する
実態調査報告書より

- 療育手帳所持者の2 %が強度行動障害
→ちなみに、強度行動障害リーフレット
(平成25 年度厚生労働省)によれば、推計値
として、強度行動障害得点10点以上の人が療育
手帳所持者の概ね1 %程度(全国で約8000人)
あるとしている。

強度行動障害に関する調査結果②

岡山県が実施した2019 年度 強度行動障害に関する 実態調査報告書より

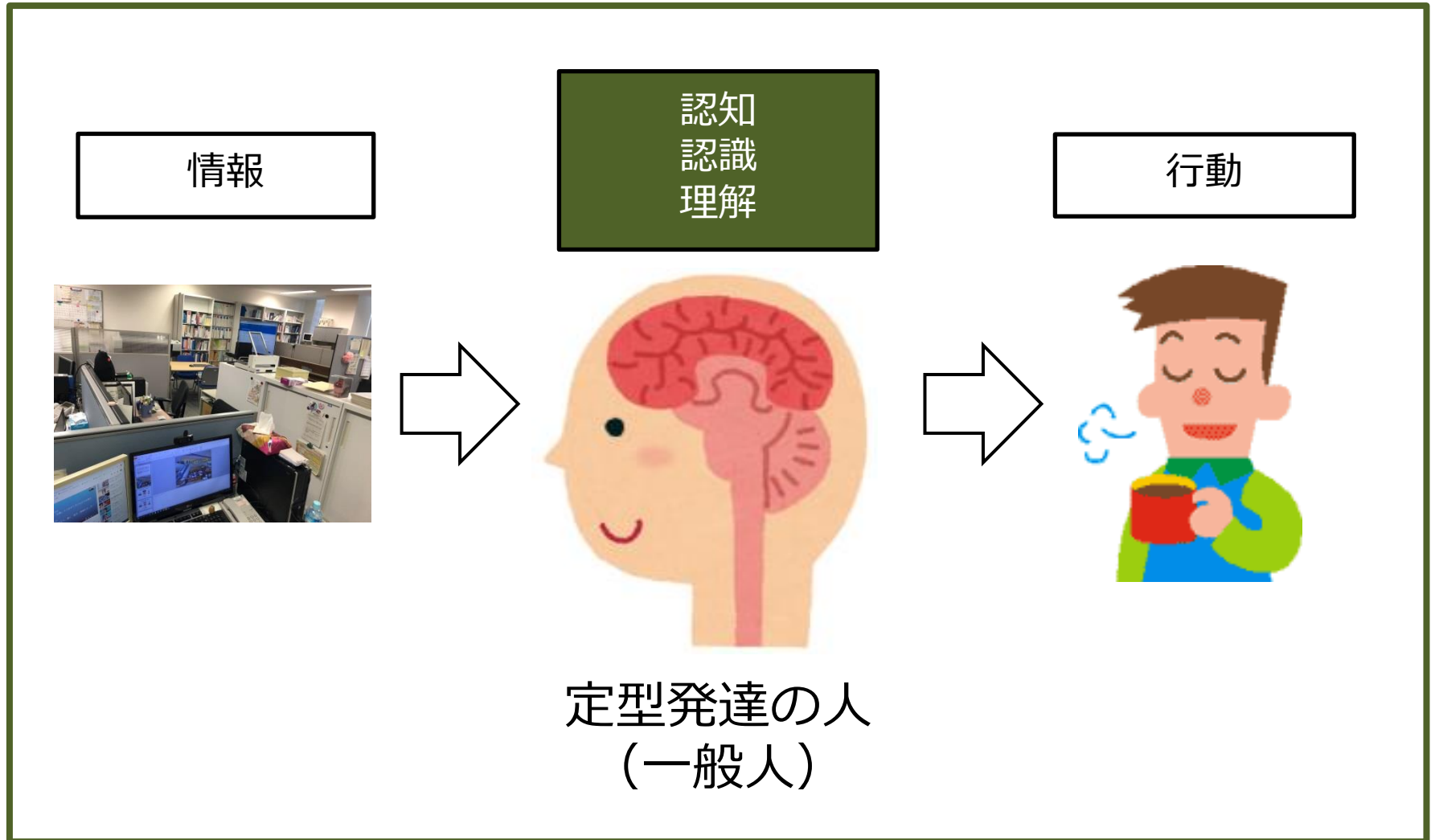
- 知的障害あり（96.6%）、自閉症あり（52.6%）
- 知的障害と自閉症を併せ持つ人は50.8%
 - 強度行動障害リーフレット（平成25年度厚生労働省）には「強度行動障害になりやすいのは、重度・最重度の知的障害があったり、自閉症の特徴が強い『コミュニケーションが苦手な人』です」という記載がある。
- 強度行動障害がある人を支援している機関は、
障害者支援施設：77.1%、生活介護事業所：50.0%
就労継続支援 B 型事業所：4.2%、
支援学校：33.3%、精神科医療機関：44.4%

②自閉症について

- 現在、自閉症のことを正式には「自閉スペクトラム症」もしくは「自閉症スペクトラム障害」と呼びます。いろいろなタイプがいて、境目のない連続体として広がっているという考え方です。
- 自閉症は、社会性やコミュニケーションの困難、想像力（目の前にないことをイメージすること）の困難が診断基準となり、感覚の特異性も診断の際に考慮されます。



人は情報を脳で処理をして行動をしている



自閉症は脳の機能的な障害

情報



認知の違い
認識の違い
理解の違い

行動の違い



非定型発達の人
(発達に特性のある人)

③自閉症の特性を整理する

なぜ、自閉症の特性を整理するのか

自閉症の人たちは社会では少数派です。

その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。

自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

特性とは

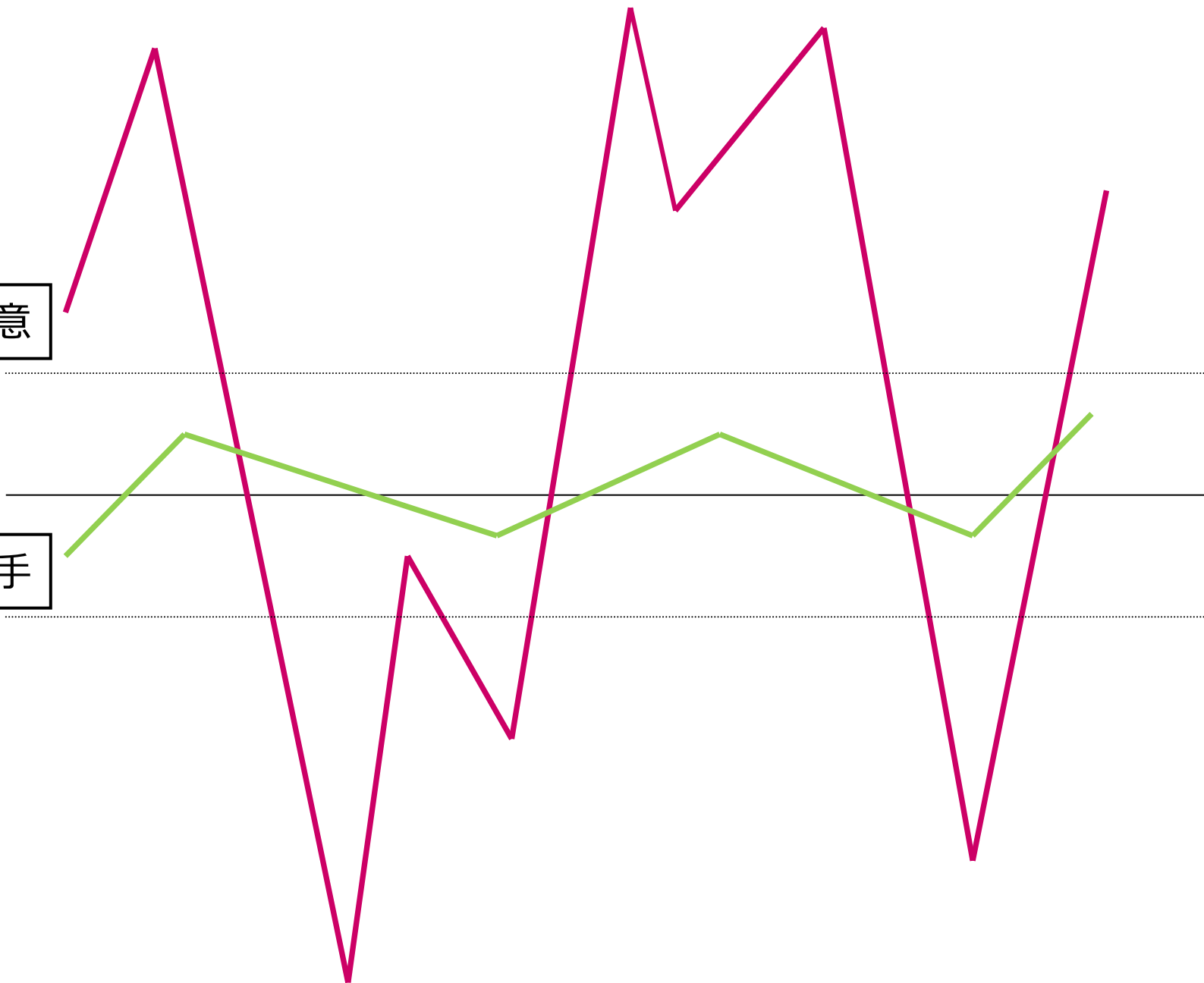
「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。

「強み」は支援に生かすもので、
「弱み」は支援者が配慮するところ と言えます。

それゆえ、特性の把握においては、
「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要
です。

得意

苦手



- 自閉症の人たちの

物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、
自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、
強度行動障害という状況に陥ることなく、
よりよい生活を送ることができます。

- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、
支援の基盤に置く必要があるのです。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

視点① 社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

- ・ 相手への関心が薄い
- ・ 相手から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 相手が見ているものを見て、相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

- ・ 周囲で起こっていることへの関心が薄い
- ・ 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 見えないものの理解が難しい

☆ 自分がすべきことが明確であれば、集団への適応が増す。

視点② コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

- ・話し言葉の理解が難しい
- ・一度にたくさんのことを理解するのが難しい
- ・抽象的であいまいな表現の理解が難しい

【発信が難しい】

- ・話し言葉で伝えることが難しい
- ・どのようにして伝えたらいいか分からない
- ・誰に伝えていいか分からない

視点② コミュニケーションの特性

【やりとりが難しい】

- ・ 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい
- ・ 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい
- ・ やりとりの量が多いと処理が難しい

☆話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

視点③ 想像力の特徴

※想像力：目の前にないことをイメージする力

【自分で予定を立てることが難しい】

- ・段取りを適切に組むことが難しい
- ・なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい
- ・今やることを自分で判断することが難しい

【変化への対応が難しい】

- ・先の予測をすることが難しい
- ・臨機応変に判断することが難しい
- ・自分のやり方から抜け出すことが難しい

視点③ 想像力の特徴

【物の一部に対する強い興味】

- ・ 興味・関心が狭くて強い
- ・ 細部が気になり違いに敏感
- ・ 少しの違いで大きな不安を感じる

☆目の前に存在する視覚情報があるとわかりやすさが増す。

☆自分が興味・関心のある対象への思いが強みになることも多い。

視点④ 感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

- ・聴覚の過敏や鈍麻がある
- ・視覚の過敏や鈍麻がある
- ・触覚の過敏や鈍麻がある
- ・嗅覚の過敏や鈍麻がある
- ・味覚の過敏や鈍麻がある
- ・前庭覚の特有の感覚がある

☆感覚に関する反応が、心身の状況や調子のバロメーターとなることも多い。

④学びと肯定的理解の重要性

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、
わかったつもりにならないことが大切です。
- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本に
いつも立ち返ることはとても重要です。

苦手なことには配慮し、得意なことは活かすのが支援の基本です。

繰り返しになりますが、得意なことを把握することはとても大切です（苦手とされていることも「ここまではできる」という見方もできるし、視点を変えれば「強み」になることもあるはずです）。

⑤知的障害および精神障害について

自閉症以外に、
強度行動障害に関連する障害として、
知的障害および精神障害があります。

知的障害の診断基準

(DSM-5では、知的能力障害もしくは知的発達症と表記される)

- 知的機能に制約があること

IQ70未満が知的障害の目安

※知的機能 = 言語理解力・論理的思考力・抽象的思考力・推理力・記憶力・
経験から学習する能力・概念形成能力・知的推理力等

- 適応機能に制約があること

日常の社会生活を営む上で必要とされる能力や行動に制約がある

- 発達期に生じたものであること

概ね18歳以前に知的機能の制約と適応機能の制約が始まる

※参考 DSM-5（精神疾患の分類と診断の手引き）

軽 度 IQ 50-69

成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当

中 度 IQ35-49

成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当

重 度 IQ20-34

成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当

最重度 IQ 20未満

成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満

※軽度、中度、重度、最重度の区分はICD-10（国際疾病分類）による。

精神障害について

- 統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第五条）
- 精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者（障害者基本法第二条）
- 幻聴、妄想、体感幻覚、感情の平板化、意欲低下、ひきこもりなどの具体症状が現れる。